

評価結果公表票

作成日 平成19年11月12日

【評価実施概要】

事業所番号	272400532
法人名	有限会社さくら会
事業所名	グループホームさくら園
所在地	五所川原市金木町川倉七夕野84-367 (電話) 0173-52-5053
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成19年8月27日

【情報提供票より】(平成19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	17人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	理美容代実費 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		780 円

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	8 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79 歳	最低	49 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立金木病院、今歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「地域の中に溶け込んで生き生きとした生活が実感できるように」、「家庭的な雰囲気の中で心のこもったケアをし、皆が仲良く元気で幸せに穏やかに暮らせるように」という理念を掲げており、園長始め管理者や全職員は、利用者の「人命の尊重」、「自由で自分らしい暮らし」が実現するよう日々のケアを提供している。
 看護師を配置して医療連携体制を整備するほか、口腔ケアの充実を図るために歯科医師による定期的な訪問診療を受ける等、病気の予防に努めるとともに、利用者の身体的・精神的状況の変化や異常を早期発見できるような体制が整えられている。
 日々の関わりや家族からの情報、全職員の気づきを基に、利用者一人ひとりの思いや希望を把握しており、個々のペースに合わせた生活の流れを支援するほか、意向に合わせた居室作り等が行われている。
 また、地域行事に参加したり、ホーム行事への参加を呼びかける等、地域との関わりを深めており、万が一の災害時には地元消防団等からの協力が得られている。

【特に改善が求められる点】

職員は虐待について理解し、虐待のないケアを行っているが、虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れ等について取り決めを作成し、それを全職員に周知する取り組みに期待したい。
 面会時や電話等でホームの暮らしぶりを家族に報告しているが、職員の異動があった時にも随時報告してはどうか。
 食事摂取量の記録や水分摂取量の目安を立てているが、受診時の目安とするためにも、発熱などの体調変化等があった時は水分摂取量も記録してはどうか。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果を受けて職員間で改善点等について話し合いを行っており、ホーム外の苦情窓口の連絡先をホーム内に掲示する等、改善に向けて具体的に取組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)</p> <p>会議や申し送り等で評価の意義等について理解を深めており、自己評価を実施する際には職員アンケートを取ったり、会議で話し合いを行う等、全職員で取組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、日々の取組みや行事案内、評価結果等について報告している。また、委員から専門的な意見が出されており、必要に応じて職員会議で検討し、今後の取組につなげている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>ホーム便りや電話、面会時、行事参加時等を通して日々の様子や受診状況等を家族に伝えている。また、ホーム内外の苦情受付窓口をホーム内に掲示したり、運営推進会議に家族代表が参画するなど、家族が要望等を話せる機会を確保している。家族から意見等が出された時には園長や管理者が話し合いの必要性を判断し、対応している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩等に出かけた時に挨拶を交わすほか、地域の行事に積極的に参加しており、近隣の方から野菜の差し入れをもらう等の関係が築かれている。また、認知症の相談に応じたり、中学校の福祉教育実習や見学を受け入れる等、地域に開かれたホームである。外部の人を受け入れる際には利用者のプライバシーに関わる言動には配慮する等の対応を行っている。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	<p>地域密着型サービスの役割等を意識した理念のもと、日々のケアや地域との関わり等に関する気づきについて話し合いを行う等、全職員が理念の実践に努めている。</p> <p>園長は職員の資格取得等を全面的に支援しており、年間計画を作成し、勤務体制に配慮した上で職員を研修に派遣している。受講後は報告書の回覧や会議等での伝達を行い、全職員に周知している。また、地区のグループホーム協会に加入して事例研究や意見交換等を行っており、気づきや参考になることはホーム運営に取り入れる等、サービスの向上に積極的に取組んでいる。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者が安心してサービスを開始できるよう、ホームを見学してもらったり、自宅を訪問し、利用者や家族の意向を十分に聞いている。日々の関わり等から利用者一人ひとりの意向や心の変化を汲み取るよう努めるとともに、山菜の皮むき等の利用者が得意なことや興味のあることは手伝ってもらい、感謝の言葉を掛ける等、利用者と職員が支えあう関係作りが行われている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>アセスメントや利用者との日々の関わり、家族からの情報等から一人ひとりの思いや好み、希望を把握するほか、月1回のケアカンファレンスで職員の気づきを出し合った上で介護計画を作成している。また、必要に応じて利用者や家族も交えて計画を作成している。重度化や終末期のケアに対する指針が作成されており、ホーム側で対応できるケアについて入居時に利用者や家族に説明している。また、急変時等についても、家族の意向を踏まえた上で医療機関との連絡を密に取り、対応している。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>日常的に散歩や買い物に出かけるほか、地域行事に参加したり、家族の協力のもと墓参りに出かける等、ホーム内に閉じこもらないよう、一人ひとりの希望にそった外出支援を行っている。</p> <p>研修等で身体拘束に関する知識を深め、拘束の無いケアを提供するとともに、やむを得ず拘束を行わなければならない場合は理由等を記録したり、家族の同意書をもらう体制となっている。</p> <p>ホーム内の広い窓からは光が差し込み、適度な明るさが保たれている。また、畳やソファ等家具を設置したり、金魚を飼う等、家庭的な空間となっているほか、季節感のある装飾品を飾る等の配慮も行われている。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	園長始め全職員が地域密着型サービスの意義等を理解している。これまでの理念を見直し、「地域の中に溶け込んで生き生きとした生活が実感できるように」「家庭的な雰囲気でのこもったケアをし、皆が仲良く元気で幸せに穏やかに暮らせるように」という地域との連携強化に重点を置いた理念が作成されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、開園時や職員採用時、申し送りや会議等で理念を全職員に周知している。また、職員は日々のケアや地域との関わり等について気づいたことを連絡帳に記録し、申し送りなどで話し合っており、理念を実践できるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	文化祭や郷土芸能等の地元の行事に積極的に参加するほか、散歩や買い物等で挨拶を交わしており、近隣の方から野菜の差し入れをもらう等、顔馴染みの関係が築かれている。地元消防団との交流を通して認知症の相談に応じたり、中学校の福祉教育実習や見学等を受け入れるほか、温泉をより多くの人に楽しんでもらうためにデイサービスを実施するなど、地域に開かれたホームである。また、外部の人を受け入れる時は利用者のプライバシーに関わる言動等には配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議や申し送り等で評価の意義や目的等について全職員への周知を図っており、自己評価を実施する際には職員アンケートを取ったり、会議で話し合いを行っている。また、外部評価の結果を受けて改善点に関する話し合いを行う等、より良いサービスにつなげるための取り組みが行われている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催しており、行事案内や日々の取り組み、評価結果等の報告を行い、委員からの提言をもらっている。委員から出された意見は、必要に応じて職員会議で周知して更に話し合う等、今後の取り組みにつなげている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム便りやパンフレットを配布するほか、自己評価及び外部評価の結果を提出している。また、運営推進会議のメンバーとして行政職員が参画しているため、ホームの取り組み状況等について話し合うなど、連携が図られている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前、地域福祉権利擁護事業を利用していた方がおり、また、研修等で制度の概要等について理解を深めているため、利用希望があった時には事業に関する情報提供等を行う体制が整えられている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や申し送り等で高齢者虐待防止法等に関する理解を深めており、今後も研修会の実施を予定している。園長や管理者は、日々のサービスの中で虐待につながる行為がないよう注意・配慮しているが、虐待を発見した場合の対応や報告等の流れは整備されていない。	○	虐待は行わない方針が徹底されているが、虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れ等について取り決めを作成し、それを全職員に周知する取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にホームを見学してもらったり自宅を訪問する等、ホームの方針を理解してもらえよう利用者や家族に十分に説明を行うとともに、意見や疑問を聞いて話し合う場を設けている。また、契約改訂時や退居時にも十分に説明して同意を得ている。退居時には必要に応じて退居先等の情報提供を行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	年1回のホーム便りや面会時、電話等で日々の暮らしぶりや受診状況、行事事案内等を行っている。金銭管理は個々の出納帳に記録しており、月1回報告し、年1回領収書のコピーを家族に送付しているが、職員異動に関する報告を行うまでには至っていない。	○	職員異動があった時も、面会時や電話等で随時報告することに期待したい。
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見等を話しやすいように日々の報告や面会時の声かけ等を行っている。また、ホーム内外の苦情窓口を重要事項説明書に明示するとともに、ホーム内に分かりやすく掲示し、家族への周知に努めるほか、家族代表が運営推進会議のメンバーとなっており、意見を出す機会を設けている。家族から意見等が出された時は聞き入れる体制が整えられている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動がある時は前職員からの引継ぎを行うとともに、予め実習期間を設けてさりげなく新しい職員を紹介する等、利用者が違和感を感じないよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園長は職員の資格取得を全面的に支援し、年間計画を作成するほか、自らも積極的に研修に参加している。職員を派遣する際には勤務体制に配慮し、受講後は報告書を作成して回覧したり、会議や申し送りで全職員に伝達している。また、日々の業務に関する助言は園長や管理者、運営推進会議のメンバーが行っている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協会に加入するほか、他施設との交流会や研修会等に積極的に参加し、サービスの質の向上につなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者や家族に見学に来てもらったり、職員が自宅を訪問する等、利用前から顔馴染みの関係を築くとともに、利用希望者や家族の意向を十分に聞き、安心してサービスを開始できるよう対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	アセスメントや日々の生活から一人ひとりの意向や心の変化を汲み取るよう努めている。また、利用者の長年の経験が活かせるよう、個々に応じて山菜の皮むきや花の水やり、掃除等を促すとともに、作業後は感謝の言葉を掛けるなど、利用者と職員が支えあう関係作りが行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを通して言葉や表情等から一人ひとりの思いや希望を把握するよう努めている。困難な場合は申し送りや個人記録、日々のケア等を基に職員間で話し合いを行ったり、家族からの情報収集を行い、利用者の意向を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりのライフスタイルや生活歴、個性、価値観等を把握するために利用者や家族から十分に話を聞き、介護計画に反映させるほか、場合によっては計画作成時に同席してもらっている。また、月1回のカンファレンスで職員の意見を出し合い、個別具体的な内容となるよう努めている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間が6ヶ月と明示されており、モニタリングや再アセスメントを行った上で見直しを行っている。また、連絡帳や個人記録、申し送り等を通して常に利用者の状態を把握しており、状態変化や利用者及び家族の要望の変化時等には随時の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	文化祭や墓参り、自宅、通院、買い物等、一人ひとりの希望に合わせて外出支援を行うほか、家族宿泊時は寝具を提供する等、利用者や家族のニーズに柔軟に対応している。また、デイサービスを行っており、ホームの暮らしと連動した支援を行うことができる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受療状況を把握しており、利用者のほとんどが入居前に通院していた医療機関を受診している。また、希望や状態の変化があった場合も適切な受診や相談ができるよう対応しているほか、歯科医師による定期的な訪問診療も行っている。受診内容は個人記録に記載するとともに家族に報告しており、共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対する指針が整備されており、ホーム側で対応できるケアについて入居時に確認している。また、急変時や緊急時の対応についても、家族の意向を踏まえた上で医療機関との連絡を密に取り、安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	園長は、管理者や職員に利用者のプライバシー確保について周知・徹底を図っており、「不適切な言葉を発していないか」「個人情報の保護・理解に努めているか」「その人の尊厳を大切にしているか」等について職員間で確認し合いながら日々のケアを提供している。また、個々の希望する呼称や「さん」付けで呼んだり、トイレへの案内時は他の利用者には気づかれないようさりげなく行う等の配慮が行われている。個人記録は所定の場所に保管している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「主人公は利用者である」「利用者が自分らしい暮らしができるよう支える側であることを心掛ける」という方針のもと、一人ひとりのペースや思い、心身の状態等を考慮した対応に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を実施して一人ひとりの好みを取り入れた食事を提供するほか、利用者と一緒に買い物や調理、後片付けを行っている。また、職員は利用者と一緒に同じ食事を摂ったり、利用者のそばに座って食べこぼし等へのサポートを行っており、会話をしながら食事の時間を楽しんでいる。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回となっているが、夜間を除き回数や時間の希望に対応している。また、アセスメント等から入浴習慣を把握しており、個々の力量に応じた支援を行っている。入浴を拒否する利用者には無理強いせず、時間をみて違う職員が再度声がけしたり、別ユニットの温泉に誘う等の工夫が行われている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントや日々の関わり、家族からの情報を基に一人ひとりの希望や力量等を把握している。個々の経験や得意なこと等に合わせて、食器洗いや洗濯物たたみ、鯉の餌やり等の役割を促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩に出かけるほか、買い物や小学校の運動会、音楽会等に出かけている。また、家族と連絡を取りながら墓参りや自宅へも出かけている。外出時はその日の体調や気分変化に応じて時間や場所を決めたり、車椅子での外出を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部・外部研修や会議、申し送りを通して身体拘束に関する理解を深めており、拘束のないケアに努めている。やむを得ず拘束を行う場合は理由等を記録するとともに、家族に説明して同意書もらう体制が整えられている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関等は施錠しておらず、自由に出入りできるようになっている。外出傾向のある利用者には見守りを徹底し、察知した場合は職員が必ず付き添っている。また、無断外出時には近隣住民からの協力が得られる体制が整備されている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に備えて備蓄品を用意するほか、消防署の協力を得て年2回の避難訓練や消火器の使い方、夜間を想定した避難訓練を行っている。また、災害時に協力が得られるよう、地元消防団や運営推進会議に働きかける等の取り組みが行われている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホームの調理師がカロリーや栄養バランスに配慮した献立を作成しており、年1回、ホーム外の栄養士に相談し、アドバイスをもらっている。食事量を個人記録に記載したり、一日の水分量の目安を立てて提供し、体調変化時は調節する等の取り組みは行われているが、水分摂取量の記載は行われていない。	○	発熱や食欲不振等の利用者の体調変化時には、治療の目安とするためにも水分摂取量の記載を行ってどうか。
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルが作成されており、県や関係機関等から最新情報が入った時などは随時の見直しを行っている。また、勉強会を行って理解を深めるほか、必要箇所は抜粋して冷蔵庫等に貼り、実践している。インフルエンザの予防接種を行ったり、感染症に関する情報を家族に提供するほか、ホーム内に感染症対策のポスターを掲示し、来園者に周知する等の取り組みも行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には畳やソファ等が設置されているほか、金魚を飼ったり、季節感のある装飾品を飾る等、家庭的な空間となっている。日射しの強さはカーテンで調節し、テレビの音量や職員の声のトーンも適切である。また、風呂は温泉を引く等、利用者が居心地良く過ごせるような工夫が行われている。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物の持ち込みを促しており、タンスやテレビ、写真、仏壇等の品が持ち込まれている。また、利用者の希望を聞きながら居室内のカーテンや家具の配置を決めたり、ベッドではなくカーペットの上に布団を敷く等、一人ひとりが居心地よく過ごせるよう配慮している。		

※ は、重点項目。